

2019 年度事業報告（中高）

<p>1. 基本方針 聖書に基づくキリスト教精神の原点に立ち、常にこれを意識しながら教育活動にあたる。すべての生徒の自己肯定感・自己効力感を高めることを教育目標に設定する。 「学ぶ」……主体的に楽しく学ぶ。「認める」……他者を認め、自分を認める。「つながる」……他者や社会とつながる。以上の3つのキーワードを設定し、それぞれ「主体性の伸長」「人間理解の深化」「グローバルマインドの育成」をカリキュラムポリシーとする。この新しい教育課程の構築をより具体的なものとし、その実践を成果につなげるように取り組む。</p>				
<p>2. 具体的アクション</p>				
第2次中期計画 (行動計画)	2019 年度事業計画	目標達成のための手段等	具体的な目標（数値目標）	執行状況 及び課題と対応
<p>(1) 教育理念の実践と内部質保証の実質化 ア キリスト教主義教育 a. 礼拝を守る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日々の礼拝を丁寧を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ホール礼拝、放送礼拝とも、生徒に、静粛・黙想・傾聴の姿勢を守らせる。 キリスト教行事の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> キリスト教強調週間特別プログラムの持ち方を検討し、より良いものに改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、毎朝礼拝を守り、聖書・讃美歌のことばに出会い一日が始まっている。終礼での中1の讃美歌の声も大きい。 平和を祈る週の講師佐藤優氏、キリスト教強調週間講師立野泰博牧師のメッセージは、生徒・教師共に深い印象と感銘を受けた。 来年度も、礼拝を大切に守っていく。
<p>イ 新しい教育課程の構築 a. 課題研究カリキュラムの実践 b. 育成すべき資質・能力の設定 c. 一人一台 PC の導入・活用 d. グローバル教育の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> キーコンピテンシー評価の構築 「総合的な探求の時間」の充実 EP 講座の新設 教科横断的な取り組みの推進 ラーニングコモンズ利用の充実 PS および海外研修の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価の構築 課題研究教育検討委員会による指針 EP 講座の挑戦 教育構想検討委員会が ICT 教育を統括する。 修学旅行改編の検討 他の教育機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の基準が分かりやすいものにする。 課題研究を中心に据えた学力感を教師、生徒ともが共有できるように進める。 2020年度からの導入を目指す。 2022年度高1実施を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の構築に関しては、大学共通テストの変更もあり、来年度以降に取り組む。日々の授業などの実践を通して考えていく。 土曜日に、総合学習を設け取り組んでいる課題研究型の学習に対する準備は、計画通りに実施できている。また、LHR と 2 時間続きで活動できることは、ゆとりを生んでいる。 中学の理科・社会の授業では、研究レポート発表の取り組みを実施。 EP 講座は、生徒の評価は様々であるが、生徒の学びたい方向を導き出す役割を十分に果たしている。 ラーニングコモンズの利用頻度は、授業・放課後の活動とも大きい。 4月から、保護者への連絡を、web で配信（さくら連絡網）。1学期を終え、保護者のアンケートの結果、今後 web 配信を主にする。 2014年度から2018年度のSGH指定校としての取り組みは、文部科学省より「事業計画を上回る成果を上げており、事業目的は十分に実現された」と評価された。（56校中の7校）

<p>ウ 生徒支援の充実</p> <p>a. 集団に適応できない生徒の支援</p> <p>b. 基本的生活習慣の確立</p>	<p>・教育相談体制作りをする。</p> <p>・SNS使用に伴う危険性を理解させる</p>	<p>・教育相談会議による検討</p> <p>・情報共有のケース会議の在り方の充実</p> <p>・教師側の統一した指導</p>	<p>・学習ルームの在り方の見直しをする。</p> <p>・生徒保護者アンケートの「規則順守」評価数値の上昇。</p>	<p>・中学卒業後、他へ転出する生徒8名のうち、欠席多数による者5名。</p> <p>・高校生で、転出した生徒5名中、欠席多数による者4名。欠席多数により進級できないもの2名。</p> <p>・生徒支援のあり方は、力を入れれば入れるほど、一人ひとりに合わせたものになる。それは、集団である学校のあり方に矛盾する。しかし、校内研修も生徒支援関係のものは、必ず行い、より良い環境を模索していく。</p> <p>・生徒保護者アンケートの「規則順守」評価数値は、62%が肯定的評価である。</p>
<p>エ 広報・入試対策</p> <p>a. 私学受験者の確保</p> <p>b. 入試問題の適正化を図る</p>	<p>・有効な私学受験者確保の動きを検討する。</p>	<p>・オープンスクールの増設。内容の充実を図る。</p>	<p>・9月にオープンスクールを実施</p> <p>・受験者の増加。</p>	<p>・オープンスクール（昨年度）</p> <p>7月15日 日るんるん女学院 715名参加（620名）</p> <p>9月28日 入試説明会 要項 445部(432部)</p> <p>同日秋のオープンスクール 136名（新）</p> <p>10月14日 私学フェスタ 要項 450部(350部)</p> <p>・2020年度新入生 214名。ここ5年間は、受験者数の減少はあるが、安定した入学生数を確保できている。</p> <p>・少子化の中、私学他校における男子校の共学化や学費免除の特待生制度の実施など競争激化と公立中高一貫校の躍進があり、生徒募集は厳しい。本校の存続のために、一層広報の役割は大きい。</p>
<p>オ 進路実績を伸ばす</p> <p>a. 難関大学の実績を伸ばす</p> <p>b. 大学共通テストへの対応</p> <p>c. 推薦入試等への対応</p>	<p>・生徒の学習習慣の定着</p> <p>・新しい教育課程に対応した進路体制をつくる。</p>	<p>・担任、教科担当が生徒を見る</p>	<p>・スタディーサポートにおいて、学力・学習習慣共に向上する生徒が60%以上する。</p> <p>・東大京大4名以上。国公立医歯薬8名以上。</p>	<p>・大学合格実績</p> <p>○国公立（推薦＋一般）74名（現57＋浪17） （東大1京大1大阪3名古屋1神戸2九州4広島13山口9県立広島5など）</p> <p>○私立（推薦・AO含む）広島女学院18 早稲田3慶応1上智2立教5明治5中央11 青山学院4関西学院19同志社14立命館35関西8 修道25安田40など</p> <p>○医学科11（国公立3 私立8）</p> <p>・今年度高3は、187名であり、実績数については苦しい面があった。2021年度大学入試においては、実績数を回復させる。</p> <p>※入学者数 広島女学院4修道8安田9広工大1 国際大2日赤広島2文教0</p>